

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2692600030
法人名	社会福祉法人 みつみ福祉会
事業所名	認知症高齢者 グループホーム とだ
所在地	〒620-0801「京都府福知山市宇戸田小字宮ノ段82 0773-20-1788

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年3月1日	評価確定日	平成22年5月14日

【情報提供票より】(平成22年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	9.5

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4万5千 円	他の経費(月)	円
敷 金	有()	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	有りの場合 ○無	
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または 1日あたり	1380円	

(4) 利用者の概要(1 月 16 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2	名	
要介護3	3 名	要介護4	2	名	
要介護5	0 名	要支援2	0	名	
年齢	平均 83.4 歳	最低	80	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都ルネス病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福知山市の南部、ひろびろとした農村風景がひろがる地区で、隣に同法人の保育園がある場所に建てられた新築の和風住宅がホームである。内部は同じ部屋が並ぶことがなく、適度に視線をさえぎり、落ち着いた雰囲気になっている。居間は大きなガラス戸を通して保育園児が遊んでいるのを見ることができ、掘りコタツのある和室もある。地域へのこのホームらしい工夫された取組(保育園児との交流、独居老人とのふれあいサロン、地域住民への交通安全教室)を展開しており、地域からの協力もある。40歳代と50歳代が中心の職員は資格や経験はさまざまだが、それぞれ力を持っている。利用者の希望をかなえるための余暇活動の取り組みや家族から聞いたことはどんな小さなことでも記録に残す取り組みが進んでいる。その結果、地域の書やフラワーアレンジメントの教室に利用者を個別につれて行ったり、利用者の住んでいた家に連れて行ったり等、個別ケアがさかんに行われ、みんなで楽しむ多彩な行事とともに、利用者の暮らしを豊かにしている。利用者はホーム内でも自由に振舞っており、職員とつくるグループホームの生活が具現化している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価以後は水分摂取量の記録やカロリー値の点検、広報誌の発行などを改善している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員に配布し、話し合ってまとめている。また別の項目での自己評価を年2回実施して、振り返りとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、民生委員、地域の市会議員、福知山市高齢保険係課長補佐、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。メンバーからは地域の情報をもらって行事に生かしている。隣の空き地の活用を提案され、ゲートボール場にし、利用者は活用している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>あまり意見や苦情はないので、会話のなかで聞いたことを職員が代筆して書き、職員会議で検討している。「みんながつくった虎の色紙が貼ってあるのに、うちのおじいちゃんのはないのですか。」という意見があり、対応している。利用者、家族、職員みんなで花見に行ったり、敬老会に参加してもらったり、ホームでバーベキューをしたり、大掃除を手伝ってもらったり等、家族が参加する行事は多く、和気藹々と交流している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年度は広報誌『一期一会』を発行し、地域にホームのことを知ってもらい、協力関係を築くために各戸配布している。学区運動会に参加している。公民館で警察の協力のもと交通安全教室を開催している。戸田地区の独居老人を対象に「ふれあいサロン」を開催し、利用者も参加して茶話会やレクリエーションをしている。地区の朝市に買い物に行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「共生」であり、パンフレットに明記するとともに、ホーム内に書の額を掲示している。グループホームの理念として「心配りと目配り、そして心配り」を掲げ、パンフレットに明記している。家族には契約時に説明し、地域には広報誌『一期一会』で啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は法人の理念も、グループホームの理念も、自分の言葉で語ることができ、自分の仕事の方向性として認識している。利用者とは共に生きる存在であり、利用者の意向によりケアが始まることを、自分の仕事の柱としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は広報誌『一期一会』を発行し、地域にホームのことを知ってもらい、協力関係を築くために各戸配布している。学区運動会に参加している。公民館で警察の協力のもと交通安全教室を開催している。戸田地区の独居老人を対象に「ふれあいサロン」を開催し、利用者も参加して茶話会やレクリエーションをしている。地区の朝市に買い物に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員に配布し、話し合ってからまとめている。また別の項目での自己評価を年2回実施して、振り返りとしている。昨年の評価以後は水分摂取量の記録やカロリー値の点検、広報誌の発行などを改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域の市会議員、福知山市高齢保険係課長補佐、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。メンバーからは地域の情報をもらって行事に生かしている。隣の空き地の活用を提案され、ゲートボール場にし、利用者は活用している。		

京都府 グループホーム とだ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福知山市が中心となって、グループホームの連絡会を立ち上げ、隔月に研修などを実施しており、それに参加している。開催場所は持ちまわりなので、他のグループホームを見学できる。地域住民への市としての研修を実施し、それにホームの専門性を生かすことが期待される。		
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは広報誌を季刊で発行し、送付するとともに、利用者の個々の状況を担当職員が書いた手紙「生活のご様子」を送っている。家族の面会は多く、毎週来る人もあり、少ない人でも月に1回はこられる。そのときには情報交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あまり意見や苦情はないので、会話のなかで聞いたことを職員が代筆して書き、職員会議で検討している。「みんながつくった虎の色紙が貼ってあるのに、うちのおじいちゃんのはないのですか。」という意見があり、対応している。利用者、家族、職員みんなで花見に行ったり、敬老会に参加してもらったり、ホームでバーベキューをしたり、大掃除を手伝ってもらったり等、家族が参加する行事は多く、和気藹々と交流している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、職員の退職はあったが、現在はチームワークがとれている。非常勤が夜勤の場合は宿直者を1人置き、非常勤も年休などはほとんど変わらず、働きやすい職場を目指している。年2回の懇親会を開催している。職員異動による利用者へのダメージは注意しており、工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束、高齢者虐待、認知症、感染症、疾病予防、救急法、熱中症、学習療法等のテーマを盛り込んだ研修計画を立て、実施している。外部研修を受講した場合は報告書を書き、他の職員に回覧している。正規職員は毎年自分の仕事の振り返りと翌年の目標を書き、上司と面接している。非常勤職員にも自分の目標設定とその支援が期待される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は福知山市が開催する研修や京都府グループホーム協会の研修に参加し、他の事業所を見学している。職員の交換研修を実施しており、職員は他のグループホームを見て、多くのことを学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には家族は見学に来ているが、利用者は来る人は少ない。利用が始まると、なじむまでは家族の協力を仰いでいる。落ち着かない利用者には、1カ月間毎日面会に来た息子もいる。また最初になじみになるのが管理者なので、しばらくは管理者が新しい利用者の横についているようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は昔の不自由な時代を生き抜いてきた話を利用者から聞き、感動したり、モノを粗末にはいけないという言葉に共感したりしている。「あなたはあなたのままでいいのよ」と言われた職員はその言葉が深く心に残っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用が決まると管理者と職員が訪問面接し、アセスメントしている。生活歴、生活習慣、好きなこと、趣味・嗜好、家族構成や家族関係、認知症の周辺症状などの情報を記録している。その他に生活健康スケールとして、仲間への気配り、身だしなみ、自分の意志を見せる、表情が豊か等々の情報を独自の書式で記録している。生活歴の情報は少ない。	○	グループホームにおいて、その人らしい生活を支援し、生きる意欲をもって暮らしてもらうようにするには、生活歴の情報の把握は欠かせないので、なるべく詳細に記録に残し、職員が共有化することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用が始まって2週間後くらいにアセスメント情報と観察情報をもとに、管理者兼ケアマネジャーが介護計画を作成し、職員に説明している。介護計画は「カルチャー教室に参加」「晩酌」など、個別で具体的であり、プラス志向のものになっている。生活歴の情報の反映が不十分である。	○	介護計画はケアマネジャーだけでなく、職員が観察した情報をもとに、チームで作成すること、その人らしさのケアのために、生活歴の情報を反映したものにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の項目にそってではないが、介護を実施したときに利用者の発言や表情を記録に残している。観察は暖かい目で見て、生き生きと書いている。実施できなかったときの考察などは書かれていないので、介護計画の評価の根拠が記録から確認できない。	○	ケース記録は介護計画の項目にしたがって、介護を実施したかどうか、そのときの利用者の表情や発言、実施の拒否があったときなどはその考察を記録に残すことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の美容や理容は訪問美容が来てくれるので利用している。家族がつれて行く人もいる。地域のパン屋さんが手作りパンを売りにくるので、利用者は喜んで買っている。同法人の保育園とはさまざまな面で交流している。警察署の協力を得て地域の公民館で交通安全教室を開催している。法人は人事、研修等の実施をしてくれ、行事には参加できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は家族が同行しているが、職員が同行する場合もある。利用者のホームでの情報は看護師がサマリーを書いており、看護師が同行する場合もある。利用者の検診は毎年実施している。認知症専門医は利用者のかかりつけ医と相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化やターミナルケアに関して、ホームとしての方針の明文化はできていないが、管理者も職員も利用者への馴染みの関係ができており、最期までお世話したいという思いが強い。利用者や家族に意向を聴いているが、「住み慣れたホームで」という希望が多い。方針の明文化と意向確認が急がれる。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室もトイレも、中から鍵がかかるようになっており、かける人もいる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は6時半ころに起きる人があり、遅い人は8時半ころまで寝ている。夜も7時半に寝る人もあるが、12時ころまで起きている人もいる。外へ行きたい、お風呂に入りたい等々、利用者の声があったときに支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭と同じように利用者の希望を聞いたりして献立をたて、食材の買い物に行ったり、注文して配達してもらったりしている。調理も配膳も後片付けも利用者と職員と一緒にワイワイと楽しみながら、行っている。月見団子づくり、おはぎづくり、一銭焼き、鍋料理などもあり、外食も年に2、3回は出かけている。利用者の好きなどところに座って、職員と一緒に、他の利用者の世話もやきながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭風呂より少し広めの浴室で、窓が大きく明るい。少ない人でも週2回の入浴を目指しているが、毎日入りたい人には支援しており、夜間に入る人も3人いる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、自分で食べた食器は自分で洗う、掃除、自分の下着の洗濯、洗濯物を取り入れてたたみ、その利用者の部屋に届ける、できない利用者には助けてあげる等々、利用者は自然体で助け合っている。編み物、書、ペーパークラフト、畑仕事、水やり、カラオケ、ゲートボール等を楽しんでいる。園児との芋ほり、月見団子づくり、育てたあずきの収穫等、地域らしい楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、花見等の季節のお出かけ、地区の文化祭、コミセンの文化祭、同法人の特養の文化祭などに出品と見学、紅葉の姫路城や兵庫県西脇健康ランドへの日帰り旅行など、利用者はさまざまなお出かけしている。利用者の「帰りたい」に応じて、以前住んでいた自宅と同町内の生家への個別外出にも取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地には柵はなく、玄関ドア、勝手口等、施錠されていない。散歩等で近隣の人には顔を覚えてもらっている。男性利用者が出て行ったときには通報してくれるなど、協力してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についての設備、防火管理者等の備えがあり、備蓄も準備している。地域の人の協力もとの避難訓練を実施している。昨年の台風のときには法人の特養に早い目に避難している。夜間の火災など、緊急時に職員のホットラインをつくっており、それに地域の協力者も登録してもらおう予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録が残されている。献立のカロリー値や味、量、盛り付けなどが点検されている。栄養バランスについても点検し、コメントを残しておくことが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横に葉牡丹の鉢をいくつも並べ、木製の表札をかけている。内部はゆったりとして適度に視線をさえぎりつつ、廊下から居間にはガラス戸で開放的にしている。居間兼食堂には掘りごたつのあるたたみコーナーと台所があり、本棚に本を並べ、観葉植物の鉢を置いている。廊下には座りやすい2人掛けのソファと飾り棚を置き、また椅子とテーブルを置いたコーナーもあり、気のあった利用者が自由に好きところで話し込んでいる。居間からは大きなガラス戸で外の保育園の運動場が見える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には季節感のあるポストカードに名前を書いて、他の利用者にもわかるようにしている。室内は広く、トイレ、洗面台、クローゼットが備え付けられている。書き物机と椅子、応接セット、小さな飾り棚、タンス、仏壇、観葉植物や胡蝶蘭の鉢などの使い慣れた道具や飾り、そしてクリスマスリースや家族の写真、アルバム、本など、利用者はいろいろなものを持ち込んでおり、どの部屋も非常に個性的で「その人らしさ」に溢れている。		